

医療法人社団博友会 広報誌

Hakuyukai - Dayori

博友会だより

医療・看護・介護を通して地域に貢献いたします

早めに 発見したい! 認知症の初期症状

医療法人社団博友会 平岸病院 精神科 江本 雄泰 医師

夏 [No.14]
2012年7月

ご自由に
お持ち帰りください



5月21日 部分日食

6月4日 部分月食

6月6日 金星の太陽面通過

撮影: 平岸病院情報管理室 川村伸司

医療法人社団博友会は4つの施設で社会貢献しています



平岸病院

精神科・神経科・内科・神経内科・歯科・訪問看護
赤平市平岸新光町2丁目1番地
TEL: 0125-38-8331



北の峰病院

精神科・神経科
富良野市中御料2062番地
TEL: 0167-22-2011



介護老人保健施設博寿苑

入所・短期入所・通所リハビリテーション
赤平市平岸新光町2丁目4番地
TEL: 0125-37-2001



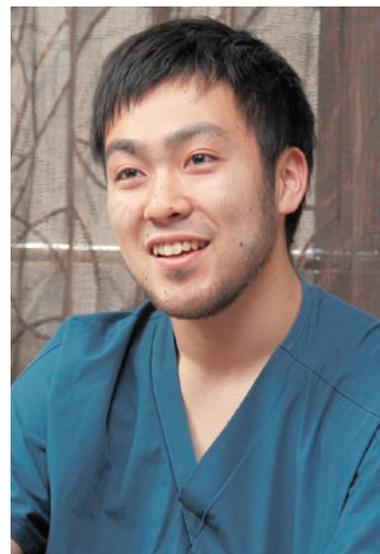
共同生活援助事業所グループホーム博友荘

入居による生活援助
赤平市平岸新光町4丁目34番地
TEL: 0125-37-2077

早めに発見したい！ 認知症の 初期症状



認知症は、記憶力や理解力、判断力が低下し、日常生活に支障をきたすようになる病気で、高齢化が進む中、増加しています。「何かおかしい」と家族が感じたら、早めに受診を。早期からの治療で症状の改善を図ることが可能になっています。



医療法人社団博友会
平岸病院 精神科

ゆうだい
江本 雄泰 医師

昭和59年 広島県廿日市市生まれ
平成21年 札幌医科大学医学部 卒業
平成21年 千歳市民病院(初期臨床研修医)
平成22年 札幌医科大学付属病院
(初期臨床研修医)
平成23年 札幌医科大学付属病院神経精神科
平成24年 医療法人社団博友会平岸病院

認知症の原因と主な症状

認知症は、原因によってアルツハイマー型認知症と脳血管性認知症に分けられます。

アルツハイマー型認知症

ゆっくり進行します

脳が萎縮する原因不明の病気です。初期には「物忘れが自覚できない」「行為自体を含めて全部忘れる」「性格が変わり、怒りっぽく、疑い深くなる」などの変化が認められます。まず、



脳血管性認知症

突然症状が出ます

脳の血管障害、脳梗塞や脳出血などで脳への血流が低下し、認知症の症状が出ます。歩行障害、手足の麻痺、排尿障害、抑うつ、感情失禁などの症状が突然出現したり、階段状に悪化したり、変動したりする特徴があります。



認知症は、まず家族が症状を理解することが大切です

診断と治療

「いつもできていたことが、できなくなつた」「好きだったことに興味を示さなくなつた」「何度も同じことを聞くようになった」など、今までにない変化を家族が感じたら、早めに診察し、原因を調べましょう。

平岸病院ではCT検査やMRI検査を行い、認知症を診断しています。認知症と判断された場合は早期治療に取り組み、症状改善を目指します。

定期的な健康診断で、老いの変化を継続的に診ながら早期診断・早期治療することが、適切な健康管理へとつながります。

よろしく願っています

5月から精神科の常勤医として勤務しています。精神科医の仕事は、患者さんの言葉をしっかりと聞き、受け止め、奥にあるものを引っ張り出すことだと考えています。家族へのサポートも大切な役目です。臨床経験を積み重ね、患者さんと家族に頼りにされる存在になりたいと思っています。



介護老人保健施設 博寿苑

新施設長着任

モットーは
明るく・楽しく・健康に！

今年6月1日に博寿苑の施設長に就任。平岸病院と北の峰病院では、耳鼻咽喉科の診療を担当しています。「利用者さんとの関係づくりには、会話とスキンシップが欠かせません。私の顔を見て『安心した』と言っていただけのような存在になりたいですね」と抱負を語ります。

昭和50年から平成18年まで富良野で診療所を開業し、かかりつけ医として地域住民の健康を守っていました。「当時の患者さんに会うと嬉しい」と笑顔になります。

介護老人保健施設博寿苑は、リハビリテーションを中心とした医療サービスを提供し、在宅復帰を目的としています。今年4月に看護主任2人、6月に施設長が着任し、一人ひとりの健康を見守る体制がより強化されました。

柏木 稔暖 としはる 施設長



昭和11年 福岡県生まれ
昭和38年 長崎大学医学部卒業
昭和38年 福岡県田川市立病院
昭和39年 長崎大学医学部耳鼻咽喉科教室
昭和46年 富良野協会病院
昭和51年 富良野市で柏木耳鼻咽喉科医院開業
昭和56年 上富良野町に分院開業
平成18年 医療法人社団博友会北の峰病院
平成22年 長崎百合野病院
平成24年 医療法人社団博友会博寿苑施設長
医療法人社団博友会平岸病院
資格…医学博士

ご自身の健康の秘訣は、楽しいお酒を適度に嗜むこと。「たつた一度の人生は、楽しむためにある。だから、つらい時ほど、これで良かったと発想を転換する。そうすると不思議と良い方向へ進むものですよ。」

利用者さんが安心してラックスできるように、笑顔のコミュニケーションを大切にしています。

新看護主任紹介

気軽に話しかけてくださいね！
介護と看護で毎日の快適を支えます



高島みゆき 看護主任

平岸病院で急性期の看護を担当していました。利用者さんの病状が急変した場合もバイタルサインや意識レベルを確認し、病院へ搬送しますので、ご安心ください。

看護主任の役割

- 施設と病院をつなぐパイプ役
- 利用者さんの病状急変への対応
- 日常の体温・脈拍・呼吸状態・血圧のチェック
- 異常の早期発見・早期対応
- 散歩やショッピングの同行



岩倉美由紀 看護主任

平岸病院の閉鎖病棟で看護師として勤務していました。患者さんの心の奥にある思いを引き出し、見守るのが私の役割の一つでした。利用者さんの身近な相談相手になりたいと思っています。



北の峰病院

チーム医療と地域の連携で取り組む 長期入院患者の 退院支援②

北の峰病院で取り組んでいる長期入院患者さんに対する「退院支援」の中で重要な役割を果たしているのがピアサポーターです。



ピアサポーターって？

ピアサポーターは、精神障害を経験し社会復帰を果たした元入院患者さん。自らの経験を基に相談やアドバイスをを行います。退院後も良い相談相手になれるよう同世代から選ばれます。患者さんと一緒に退院後に暮らすアパートへ足を運び、バスルームの使い方を確認したり、近くのスーパーに買い物に行くなど、退院後の具体的な生活をシミュレートし、不安を一つひとつ一緒に解決します。富良野市では現在、5人のピアサポーターが登録されています。

退院支援の事例

長期入院していた

Aさん

一年半の退院支援を受け退院。現在はグループホームで日々の暮らしを楽しんでいます

支援経過

●準備：ピアサポーター、推進員との定期面会にて人間関係構築

(週2回、支援日数は126日、ピア活動日数116日)

●外出支援：社会資源見学・買い物・バス旅行・スポーツ観戦・季節行事・料理教室・グループホーム見学

●家族との関係調整：病状説明・グループホーム見学（自宅外泊3回）

●試験外泊……グループホーム試験外泊調整と支援(外泊6回)

●退院後延長支援……通院、買い物、銀行など

※何ができて何ができないのかを確かめながら地域での暮らし方を模索するうち、患者さんは自信と希望を取り戻します

第108回日本精神神経学会学術総会の映像・写真記録をサポートしました

第108回日本精神神経学会学術総会（会長：札幌医科大学医学部神経精神医学講座齋藤利和教授）が、5月24日から26日までの3日間、札幌コンベンションセンターと隣接する札幌市産業振興センターを会場に開催されました。

国内外から集まった5000人の参加者が15会



当法人の記録係。(左から) 木村繁芳、川村伸司、谷治郎、市川正浩、三輪健治



A会場（大ホール）で特別講演を行う Dilip V. Jeste 教授

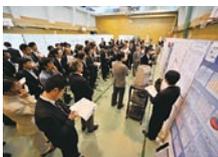


札幌医科大学 齋藤利和教授



B会場の様子

場に分かれ、精神科医療における多岐にわたるテーマで講演や発表を行い、討議を行いました。当法人職員は、総会の概要を映像と写真で記録するなどの役割を担いました。



ポスター発表



(左から) Dilip V. Jeste 教授 (University of California)、Boris Tabakoff 教授 (University of Colorado)、齋藤利和教授 (札幌医科大学医学部神経精神医学講座)、山脇成人教授 (広島大学大学院歯薬保健学研究院精神神経医学)、谷博平岸病院理事長